

第3回 2010年8月出発 参加者 ●小原 賢也さん、ホスト：ソウル大学校

1. 応募したきっかけ

私が今回の Summer Institute に応募した動機は、自分の視野を国際的にさらに広げたいと感じたからである。私にはスイスに一年間住んでいた経験があり、わりと海外には行ったことが多いほうであると思うが、韓国は日本に一番近い国でありながら一度も行ったことがなかった。これからの日本の発展を考えたとき、韓国や中国といった、隣国との協力はかせなくなってくる。この Summer Institute に参加し、韓国に住みながら国際的感覚を養うことは、将来の自分にとって必ずプラスになるだろうと考えていた。

2. 事前準備

英語にはそれほど不安を感じていなかったのですが、合格の連絡を受けてからは韓国語の勉強をすることにした。ラジオ韓国語講座が、テキスト代も安く、初心者でもとつきやすいので良かった。5月から7月末までの3か月間、毎日15分間聞いていた。出発直前には、デイリーコンサイス韓国・日韓辞典(3200円)と、ソウルの地球の歩き方を買った。

3. 現地研修

研究内容は、北海道大学で私が行っている研究である「膜構造の振動実験」を、IDEA Lab.(受け入れ先研究室)にある実験装置を利用して、北海道大学とは異なった加振法で振動実験を行うことであった。研究室のコアタイムは基本的に9:00~19:00だったが、忙しい時は皆、夜遅くまで残って研究を続けていた。特にゼミ発表の前日などは、徹夜をする人もいたが、私は徹夜をしなくてはいけなほどの状況にはならなかった。研究室の方々は皆、私に対して優しくフレンドリーで、とても快適な研究生を送ることができた。

4. この研修を通じて得たもの

研究は、目標達成のために様々なアプローチの方法があることを、実際に IDEA Lab.で実験することで実感した。北海道大学に戻った後の研究では、韓国で広げることが

できた視野と経験を生かして、さらに良い実験を行うことができると確信している。また、ソウル大学の学生の研究に対するモチベーションが高く、私の研究に対するモチベーションを上げることもつながった。今回の研修で、韓国人の友人をたくさん作る事ができた。彼らとは今後も連絡を取り合い、一生の付き合いをしていきたいと思う。

5. 参加する人へのアドバイス

私の趣味は水泳であるが、ソウル大学水泳サークルを見つけ、毎週1回、土曜日に行われている練習に参加することができた。サークルに外国人が参加するのは初めてであったようだが、皆快く私を受け入れてくれて、楽しいサークル活動になった。どこの国の人でも、同じ趣味を持つ者同士は、意気投合しやすいものである。来年以降参加する方々にも、身近にサークルがないか探し、勇気を出して参加してみることをお勧めする。

